

北見工業大学学報

第 257 号 (2013 年 5 月号)

目 次

入 学 式	平成 25 年度入学式を举行……………	2
告 辞	平成 25 年度入学式告辞……………	3
入 試	平成 26 年度編入学学生募集要項の公表……………	6
	平成 26 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表……………	7
研 究 助 成	平成 25 年度共同研究の受入状況……………	9
	平成 25 年度受託研究の受入状況……………	10
	平成 25 年度奨学寄附金受入状況……………	10
受 賞	マテリアル工学科、高橋信夫教授が平成 24 年度触媒学会「功績賞」を受賞…	11
諸 報	社会連携推進センター推進協議会総会を開催……………	12
	外部評価委員会を開催……………	13
	オホーツク「木」のフェスティバルに参加……………	14
	北海道遠軽高等学校と高大連携協力に関する協定を締結……………	15
	平成 25 年度新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン事業スタート…	16
	平成 25 年度構内美化作業を開始……………	17
	平成 25 年度第 1 回 J ファンド運営委員会を開催……………	18
	平成 25 年度北海道地区国立大学法人等財務担当部課長会議を開催……………	18
日 誌	4 月・5 月……………	19

= 入学式 =

平成 25 年度入学式を挙

(総務課)

4月5日(金)、平成25年度入学式が午前10時から北見市民会館で行われました。

学部423人、学部編入学6人、大学院博士前期課程104人及び大学院博士後期課程6人に対して、鮎田耕一学長が入学許可した後、学長告辞を行い、続いて塚本敏一北見市副市長、永田正記大学後援会会長、小

田桐久信同窓会会長、近藤和雄学生後援会会長から祝辞がありました。

更に、入学生を代表して、情報電気エレクトロニクス系の本間佑涼さんから、今後の誓いを込めた力強い宣誓があり、式は無事終了しました。

なお、入学者数は次のとおりです。

学部

系列名	入学者数(人)
機械・社会環境系	164
情報電気エレクトロニクス系	145
バイオ環境・マテリアル系	114
合計	423

学部編入学

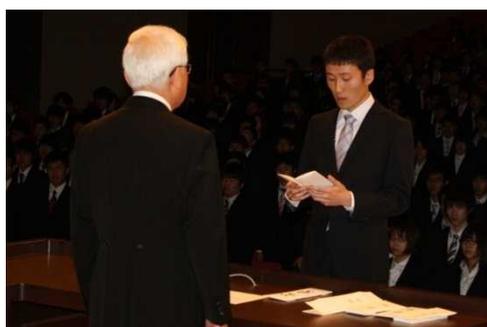
学科名	入学者数(人)
機械工学科	1
電気電子工学科	3
情報システム工学科	2
合計	6

大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
機械工学専攻	19
社会環境工学専攻	15
電気電子工学専攻	16
情報システム工学専攻	16
バイオ環境化学専攻	22
マテリアル工学専攻	16
合計	104

大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
生産基盤工学専攻	3
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	2
医療工学専攻	1
合計	6



入学生代表宣誓

= 告辞 =

平成 25 年度入学式告辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。
ます。

北見工業大学の教職員、学生を代表致しまして、私たちの大学の一員となった皆さんの入学を心から歓迎します。

また、これまで皆さんを育て、温かく見守って来られたご家族、保護者の皆様にもお祝いを申し上げます。

本日はご多用にもかかわらず、北見市副市長の塚本様、大学後援会会長の永田様、同窓会会長の小田桐様、学生後援会会長の近藤様にご臨席を賜り、オホーツクブルーの青空の下、入学式を挙行できますことに感謝申し上げます。

入学生の皆さんが住むことになった北見市の周辺には 4 つの国立公園が日帰り圏内にあります。西に「大雪山国立公園」、南に「阿寒国立公園」と「釧路湿原国立公園」、東に世界自然遺産に登録された「知床国立公園」です。

皆さんはこのような豊かな自然環境のなかで、これから希望にあふれた大学生生活を送ることになります。

皆さんの入学した北見工業大学は 3 年前創立 50 周年を迎えました。在学生は学部と大学院を合わせて約 2 千人で、卒業生は 1 万 6 千人以上に達しました。

北見工業短期大学として昭和 35 年に設立された本学は、設立後 6 年で 4 年制大学に昇格し、昭和 59 年に大学院工学研究科修士課程、平成 9 年に大学院工学研究科博士課程を設置し、現在に至っています。

学部新入生の皆さんには、大学院という

言葉はあまりなじみがないかもしれませんが、学部 4 年間を終えた後、進学するのが大学院です。

大学院には 2 年間の博士前期課程と、その後さらに 3 年間の博士後期課程があり、前期課程を修士課程、後期課程を単に博士課程とも呼びます。

工学系の大学では、社会で役に立つ、より専門的な知識を身につけるために、博士前期課程に進学する学生が多く、全国平均ではほぼ半数の学生が進学しています。

学部新入生の皆さんには、将来を見据えて大学院への進学も念頭に置き、学業に励んでもらいたいと思っています。

さて、入学式にあたり北見工業大学の特色を皆さんに紹介します。

本学ではミッションとして 4 つの柱を立てています。

1 つは当然のことながら教育です。

本学は技術系の大学ですからその教育目標は明快です。

本学では、学部新入生の皆さんが工学についての基礎学力を確実に身につけるとともに、将来技術者として自立し主体的に問題を解決できる能力を培うための教育をしています。

皆さんもそれに応えるよう精進してください。

大学全入時代を迎え、どの大学を卒業したかではなく、自ら学ぶ意欲を持って大学生生活を送るかどうか 4 年後に大きな差となって、皆さんの人生を左右することになります。

大学生は社会人と比べれば自由な時間をとりやすい恵まれた環境にあります。自らの意思で学ぶために大学に入学したと見なされているのですから、自らをコントロールし、気を緩めずに勉学に励むとともに教養も身につけてください。

大学院博士前期課程に進学した皆さんには、学部で修得した知識を応用開発に展開できる実践的な専門技術者になるよう教育します。

大学院博士後期課程に入学した皆さんには、学術研究を積極的に推進する幅広い視野と創造性を有する高度専門技術者になるよう指導します。

科学技術立国を標榜する我が国において、大学院へ入学した皆さんには、研さんを積み、技術集団の核となり、次の時代を切り拓く人材となることを期待しています。

2つ目のミッションは研究です。

学部新入生の皆さんが研究に携わるのは少し先の話になりますが、本学では地域特性を活かして魅力ある研究を推進するとともに、工業技術分野の高度化と先端化を担う研究を行っています。

いくつかの例を挙げますと、燃える氷と呼ばれ次世代のエネルギーとして期待されているメタンハイドレートの生成過程を研究しています。これまでロシアのサハリン沖や内陸のバイカル湖をフィールドにしていましたが、昨年の夏には近くの網走沖のオホーツク海でメタンハイドレートの採取に成功しています。

そのほか、地域へのメガソーラー施設誘致にもつながった「太陽光・太陽熱」、再生可能エネルギーの一つである「風力発電」などエネルギーに関する研究に加えて、北極海やオホーツク海の海水観測による地球

環境の変動など環境分野の研究にも力を注いでいます。

地域の第一次産業と密接なつながりのある「大規模精密農業」、「水産加工の効率化」、「木質バイオマスの利用技術」や地域医療への貢献にもつながる「医療材料や画像処理などの医療支援」など地域振興に関わる研究を行うことも本学の使命です。

様々な研究の内容については、先生がたが授業などで触れられますが、学部生の皆さんは4年次の卒業研究で、大学院生の皆さんは修士論文、博士論文の一環として自ら取り組むことになります。

若々しい発想で勉学にいそしみ、知見を広めることを期待しています。

3つ目のミッションは、地域貢献です。

本学では研究成果を地域の発展に還元しているだけでなく、先生がたが地方自治体の審議会に責任ある立場で参画するなど、多種多様な分野で地域に貢献しています。

本日入学した皆さんがそうであるように、本学の学生の半数は北海道外の出身で、卒業生は全国に展開し、幅広い分野で力を発揮しています。ほぼすべての都道府県出身の学生が在籍し、4年なり6年なり北見で過ごして卒業後出身地に戻る学生も少なくありません。それぞれの地で本学の卒業生として活躍すること自体がこの地域のPRになり、大きな地域貢献になっていると考えています。皆さんの存在そのものが地域貢献です。

最近はこちらに加えて北見市の教育委員会と連携し、小中学校の先生方の理科実験を支援することにより、この地域の子どもの理科離れを少なくする試みにも着手しています。夏休みには小中学生を対象にした科学実験も行っており、その指導の主

体は学生諸君です。

最後の4つ目のミッションは国際交流です。

本日、中国、ベトナム、マレーシアから19人の留学生が入学しました。

現在100人を超す留学生が在籍しておりますが、本学では今まで25の国・地域からの留学生を受け入れており、そのうち8つの国と地域の21大学と国際交流協定を結んでいます。

ユニークな大学では、本学と同じ寒冷地にあり産学連携が充実しているフィンランドの3大学やポーランドの歴史あるクラクフ工業大学などがあり、それぞれの大学から留学生を受け入れていますし、本学の学生も留学しています。

本学の学生の留学は、受け入れている留学生に比べると非常に少ないのですが、若いうちに海外での生活を経験することは、その後の人生の大きな糧になりますので、

本学では海外での語学研修をはじめ 経済的支援も含めて応援しています。

ぜひチャレンジしてください。

最後に大学生生活は、

人生のなかで最も自由な時間がとれる、

人生のなかで最も教養を高められる、

人生のなかで最も信頼のおける友人に巡り会える、

そのような環境にあります。

この恵まれた環境が将来社会人として羽ばたく上での大きな力となります。

流水が去り厳しかった冬も終わり、海明けを迎えたオホーツクの地は、今日から本学の一員になった皆さんを祝福するような春の息吹が感じられる季節になりました。

皆さんが北見工業大学の一員として心身ともに健やかな学生生活を過ごされることを心から祈って歓迎の挨拶と致します。

改めて入学おめでとうございます。

平成25年4月5日

北見工業大学長 鮎田 耕一



= 入試 =

平成 26 年度編入学学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 26 年度編入学学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。

選抜の種類	推薦入試・学力試験入試・社会人特別入試	
学 科 及 び 募 集 人 員	工学部全学科 推薦入試 10 人 学力試験入試及び社会人特別入試 若干人	
出 願 資 格	<p>推薦入試</p> <p>高等専門学校・理工系の短期大学を平成 26 年 3 月卒業見込みの者 (ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 26 年 9 月卒業見込みの者)</p> <p>学力試験入試</p> <p>(1) 大学を卒業した者又は平成 26 年 3 月卒業見込みの者 (2) 高等専門学校・短期大学を卒業した者又は平成 26 年 3 月卒業見込みの者 (ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 26 年 9 月卒業見込みの者) (3) 修業年限 4 年以上の他の大学に 2 年以上在学している者又は在学した者 ただし、一つの大学に 2 年以上 (休学期間を除く。) 在学し、62 単位以上修得した者又は平成 26 年 3 月までに修得見込みの者 (平成 26 年 3 月までに 2 年間以上在学となる者を含む。) 等</p> <p>社会人特別入試</p> <p>入学時において企業等に正規の職員として 2 年以上在職中で、在職のまま入学することができ、所属長からの推薦がある者で、次のいずれかに該当するもの</p> <p>(1) 理工系の高等専門学校を卒業した者 (2) 理工系の短期大学を卒業した者 (3) 大学・学部の理工系学科を卒業した者又は大学・学部の理工系学科に 2 年以上在学し、62 単位以上を修得し退学した者</p>	
出 願 期 間	推薦入試・社会人特別入試	5 月 7 日 (火) ~5 月 13 日 (月)
	学力試験による入試	6 月 4 日 (火) ~6 月 10 日 (月)
試 験 日	推薦入試・社会人特別入試	5 月 29 日 (水) (面接)
	学力試験入試	6 月 26 日 (水)
合 格 発 表	推薦入試・社会人特別入試	6 月 5 日 (水)
	学力試験入試	7 月 10 日 (水)

平成 26 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 26 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。また、平成 25 年度大学院秋季入学の学生募集要項も同時に公表され、平成 26 年度入試の第 1 回募集と同一日程で実施されます。

平成 26 年度大学院工学研究科博士課程

	博士前期課程	博士後期課程																																									
専 攻	機械工学専攻、社会環境工学専攻、電気電子工学専攻、情報システム工学専攻、バイオ環境化学専攻、マテリアル工学専攻	生産基盤工学専攻 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 医療工学専攻																																									
選 抜 の 種 類	一般入試 (学力試験入試・推薦入試) 学部 3 年次学生対象入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試 高等専門学校専攻科生特別入試	一般入試 社会人入試 外国人留学生入試																																									
募集人員	<ul style="list-style-type: none"> 一般入試 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">第 1 回</th> <th rowspan="2">第 2 回</th> </tr> <tr> <th>学力試験</th> <th>推薦入試</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械工学専攻</td> <td>11</td> <td>11</td> <td rowspan="7">各専攻とも若干人</td> </tr> <tr> <td>社会環境工学専攻</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>電気電子工学専攻</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>情報システム工学専攻</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>バイオ環境化学専攻</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>マテリアル工学専攻</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>56</td> <td>56</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 学部 3 年次学生対象入試 各専攻とも若干人 社会人特別入試 各専攻とも若干人 外国人留学生特別入試 各専攻とも若干人 高等専門学校専攻科生特別入試 各専攻とも若干人 		第 1 回		第 2 回	学力試験	推薦入試	機械工学専攻	11	11	各専攻とも若干人	社会環境工学専攻	10	10	電気電子工学専攻	10	10	情報システム工学専攻	8	8	バイオ環境化学専攻	9	9	マテリアル工学専攻	8	8	計	56	56	<ul style="list-style-type: none"> 一般入試 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第 1 回</th> <th>第 2 回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生産基盤工学専攻</td> <td>3</td> <td rowspan="3">若干人 各専攻とも</td> </tr> <tr> <td>寒冷地・環境・エネルギー工学専攻</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>医療工学専攻</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>8</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 社会人入試 各専攻とも若干人 外国人留学生入試 各専攻とも若干人 		第 1 回	第 2 回	生産基盤工学専攻	3	若干人 各専攻とも	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3	医療工学専攻	2	計	8	
	第 1 回		第 2 回																																								
	学力試験	推薦入試																																									
機械工学専攻	11	11	各専攻とも若干人																																								
社会環境工学専攻	10	10																																									
電気電子工学専攻	10	10																																									
情報システム工学専攻	8	8																																									
バイオ環境化学専攻	9	9																																									
マテリアル工学専攻	8	8																																									
計	56	56																																									
	第 1 回	第 2 回																																									
生産基盤工学専攻	3	若干人 各専攻とも																																									
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3																																										
医療工学専攻	2																																										
計	8																																										
出願資格	大学を卒業した者又は平成 26 年 3 月までに卒業見込みの者 等	修士の学位を有する者又は平成 26 年 3 月までに卒業見込みの者 等																																									
出願期間	第 1 回募集 平成 25 年 6 月 17 日 (月) ～6 月 27 日 (木) (推薦入試の併願を希望する者 平成 25 年 6 月 10 日 (月) ～6 月 14 日 (金)) (出願資格の事前審査 平成 25 年 5 月 20 日 (月) ～5 月 24 日 (金)) 第 2 回募集 平成 26 年 1 月 20 日 (月) ～1 月 24 日 (金) (出願資格の事前審査 平成 25 年 11 月 25 日 (月) ～12 月 2 日 (月))																																										

試験日	第1回募集 学力試験 学力検査 平成25年8月26日(月) 面接試験 平成25年8月27日(火) 推薦入試 面接試験 平成25年7月3日(水) 第2回募集 学力試験 平成26年2月12日(水) 面接試験 平成26年2月13日(木)	第1回募集 面接試験 平成25年8月28日(水) 第2回募集 面接試験 平成26年2月12日(水)
合格発表	第1回募集 平成25年9月4日(水) ※推薦入試選考結果通知 平成25年7月10日(水) 第2回募集 平成26年2月19日(水)	第1回募集 平成25年9月4日(水) 第2回募集 平成26年2月19日(水)

平成25年度大学院工学研究科博士課程（秋季入学）

	博士前期課程	博士後期課程
専攻	機械工学専攻、社会環境工学専攻、電気電子工学専攻、情報システム工学専攻、バイオ環境化学専攻、マテリアル工学専攻	生産基盤工学専攻 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 医療工学専攻
選抜の種類	一般入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試	一般入試 社会人入試 外国人留学生入試
募集人員	<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試 各専攻とも若干人 ・社会人特別入試 各専攻とも若干人 ・外国人留学生特別入試 各専攻とも若干人 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試 各専攻とも若干人 ・社会人入試 各専攻とも若干人 ・外国人留学生入試 各専攻とも若干人
出願資格	大学を卒業した者又は平成25年9月までに卒業見込みの者等	修士の学位を有する者又は平成25年9月までに卒業見込みの者等
出願期間	平成25年6月17日(月)～6月27日(木) (出願資格の事前審査 平成25年5月20日(月)～5月24日(金))	
試験日	学力検査 平成25年8月26日(月) 面接試験 平成25年8月27日(火)	面接試験 平成25年8月28日(水)
合格発表	平成25年9月4日(水)	平成25年9月4日(水)

= 研究助成 =

平成25年度共同研究の受入状況

平成25年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
社会連携 推進センター	特任教授	大島 俊之	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度構築に関する共同研究	網走測量設計協会
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	中規模河床形態の形成過程、形状特性並びに水理的多様性に関する研究	独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所
社会環境工学科	教授	川村 彰	一般路対応簡易IRI測定システム開発及び各国路面IRIデータ収集と活用	株式会社ワークム北海道
自然エネルギー 実験室	准教授	三木 康臣	スカイラジエータに関する開発研究	株式会社大阪テクノクラート
社会連携 推進センター	センター長	川村 彰	着雪がいのフラッシュオーバー機構解明と放電特性の検討	一般財団法人電力中央研究所
社会環境工学科	教授	川村 彰	簡易IRI測定装置を利用した路面の局部損傷プロファイル抽出プログラム	株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道
社会環境工学科	教授	川村 彰	高速道路における走行快適性に関する共同研究	株式会社高速道路総合技術研究所
社会環境工学科	准教授	中村 大	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響についての研究	北海道ガス株式会社 技術開発研究所
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	実物大補強土壁の凍上・融解耐久性に関する実験研究	岡三リビック株式会社/ 東京インキ株式会社
社会環境工学科	教授	三上 修一	エポキシ樹脂の寒冷地性能確認試験に関する研究（その2）	日本国土開発株式会社
社会環境工学科	教授	川村 彰	STAMPER II及びFWDの測定結果を用いた舗装の構造評価	大成ロテック株式会社
社会環境工学科	教授	川村 彰	改良型STAMPER IIとFWDを組み合わせた舗装の評価システムの改良	ティーアール・コンサルタント株式会社
電気電子工学科	准教授	武山 真弓	Cu多層配線へ適用する極薄バリア膜の信頼性	芝浦工業大学
情報システム工学科	准教授	曾根 宏靖	ファイバレーザによる超広帯域光の発生に関する研究	独立行政法人産業技術総合研究所/ 茨城大学
社会環境工学科	教授	高橋 修平	前方路面の状態検出に関する研究	ヤマハ発動機株式会社
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	斜里町における環境試料（下水汚泥・放流水）中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	斜里町
マテリアル工学科	教授	南 尚嗣	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋別市
マテリアル工学科	教授	村田 美樹	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	美幌町
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	積雪寒冷環境における水道管の浅層埋設に関する研究	北見市企業局
電気電子工学科	准教授	高橋 理音	風車による系統電圧の変動抑制技術の開発	株式会社日本製鋼所 室蘭製作所
バイオ環境化学科	教授	中谷 久之	光分解性ポリオレフィン系樹脂の微生物による生分解に関する研究	国立大学法人帯広畜産大学
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	機械インピーダンス法を用いた寒冷地コンクリート開水路の劣化診断技術の研究	独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所/ 日東建設株式会社
電気電子工学科	教授	柏 達也	電磁波測定環境における電磁波の反射、吸収の解析	E&Cエンジニアリング株式会社
社会環境工学科	教授	中山 恵介	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	北見市
社会環境工学科	教授	中山 恵介	常呂川水系水質調査研究	常呂川水系環境保全対策協議会

平成25年度累計25件

平成25年度受託研究の受入状況

平成25年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費
バイオ環境化学科	教授	堀内 淳一	合成代謝経路導入シアノバクテリアのバイオリクターによる物質生産	独立行政法人科学技術振興機構	円 12,350,000
バイオ環境化学科	教授	堀内 淳一	代謝改変酵母を用いたバイオマスを原料とするアスタキサンチン・キシリトールの同時発酵生産	独立行政法人科学技術振興機構	790,000
バイオ環境化学科	准教授	兼清 泰正	迅速かつ明瞭多彩な色調変化を示す糖検出チップのグルコース応答感度改善	独立行政法人科学技術振興機構	140,000
バイオ環境化学科	研究員	住佐 太	環境負荷を軽減するセルロース糖化促進タンパク質の機能評価と応用	独立行政法人科学技術振興機構	107,500
マテリアル工学科	准教授	大野 智也	水素ブロンズを前駆体とした貴金属を必要としない新規二元機能触媒の設計	独立行政法人科学技術振興機構	260,000
バイオ環境化学科	准教授	三浦 宏一	「函館マリンバイオクラスター ～UMI (Universal Marine Industry) のグリーン・イノベーション～」	公益財団法人函館地域産業振興財団	550,000

平成25年度累計6件

平成25年度奨学寄附金の受入状況

平成25年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額
社会環境工学科	准教授	中村 大	工学研究のため	有限会社シー・エス・プランニング	円 50,000
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	工学研究のため	有限会社シー・エス・プランニング	50,000
情報システム工学科	准教授	榎井 文人	学術研究に要する経費	中山水熱工業株式会社	100,000
社会環境工学科	教授	三上 修一	寒冷地における橋梁支承を対象としたモニタリング手法の開発	株式会社川金コアテック	500,000
機械工学科	助教	高井 和紀	住宅室内空気質の分析調査	特定非営利活動法人日本VOC測定協会	1,000,000
	学長	鮎田 耕一	学生に対する支援（語学研修プログラム参加旅費の助成）	北見工業大学後援会	640,000
機械工学科	助教	星野 洋平	工学研究のため	国立大学法人北海道大学	425,738
機械工学科	助教	高井 和紀	躯体の掃気に関するシミュレーション解析等	ジェイベック株式会社	250,000
	学長	鮎田 耕一	父母懇談会及び就職支援等の事業を推進するため	北見工業大学学生後援会	2,000,000
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	工学研究のため	斉藤井出建設株式会社	50,000
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	鹿島学術振興財団により助成された研究を推進するため	北見工業大学 宮森 保紀	1,000,000
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	橋梁モニタリング技術の開発研究のため	株式会社フジエンジニアリング	800,000
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	コンクリートの凍害とアルカリ骨材反応との複合劣化に関する資料収集	株式会社フジエンジニアリング	300,000
社会連携推進センター	特任教授	大島 俊之	橋梁維持管理に関する研究	有限会社アミューズ	100,000
社会環境工学科	准教授	後藤 隆司	工学研究のため	有限会社アミューズ	100,000

平成25年度累計15件

= 受賞 =

マテリアル工学科、高橋信夫教授が 平成 24 年度触媒学会「功績賞」を受賞

(マテリアル工学科)

このたび、マテリアル工学科・高橋信夫教授が、一般社団法人触媒学会より平成 24 年度触媒学会「功績賞」を授与されました。

触媒学会は触媒の最新情報を交換する場として 1958 年に設立されました。会員数は 2,500 名を超え学界、官界および産業界が一体となった開かれた活動を繰り広げています。触媒学会「功績賞」は触媒の振興および学会の発展に著しく貢献した者に授与されます。

高橋教授は 30 年以上にわたり、ロジウムを中心とする触媒を用いたオレフィン変換

反応の基礎的研究の領域で、種々分光法により担持ロジウムなど貴金属の物理的・化学的状態の解明に大きな成果をあげてきました。また、学会活動においては、長年にわたり北海道支部の活動・運営に携わり、「触媒」編集員、理事（北海道支部長）を務めてきました。2011 年度触媒討論会では実行委員長の大役を担うなど、触媒学会の運営に多大な貢献をしてきました。

これらが、貴金属担持触媒に関する基礎的研究ならびに学会活動における貢献として評価され、今回の受賞に至りました。



触媒学会 上田渉会長と高橋教授



功績賞楯

= 諸報 =

北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会を開催

(研究協力課)

北見工業大学社会連携推進センター推進協議会(以下、協議会)総会が、4月24日(水)、本学において開催されました。

協議会は、本学の社会連携推進センター(以下、CRC)を中心として、オホーツク地域の行政・民間機関との共同研究、研究交流、技術の指導・教育・開発などを推進することを目的とし、北見市の呼びかけに応じて、地域の産業界が中心となり平成5年3月に設立されました。

上記の目的を達成するため、CRCは毎年協議会から、地域に貢献していくための貴重な活動資金をご支援いただいています。

総会には、永田正記協議会会長をはじめ地域産業界から委員の方々が、また種々公組織から顧問の方々が、そして本学からはオブザーバーとして高橋信夫理事・副学長、川村彰CRC長ら関係者が出席し、平成24年度の事業などを報告し、平成25年度の事業計画などが審議されました。

CRCは昨年創立20周年記念事業を実施しましたが、事業実施にあたり協議会には多大なご支援をいただきました。協議会に感謝を申し上げるとともに、本学、CRCとしても地域からのご支援・ご期待にしっかりと応えていくべく決意を新たにしました。



協議会総会の様子

外部評価委員会を開催

(企画広報課)

5月9日(木)に第1会議室において外部評価委員会を開催いたしました。

外部評価委員会は本学の自己評価の結果について評価を行うために設置しており、今回の委員は、大学、高等専門学校、高等学校、研究機関、官公庁、民間企業に所属する6人で構成しています。

当日は、役員からの現況説明のほか、口語英語Ⅱ、高速流体力学及びマテリアル工学実験Ⅲの授業見学、講義室や学生支援施設等の現地調査を行い、教育、研究、地域貢献、教育の国際化等の観点について検証が行われました。また、本学の優れた取組や今後検討すべき点などについて、貴重な提言がありました。



全体会議の様子



授業見学の様子

オホーツク「木」のフェスティバルに参加

(社会連携推進センター)

北見工業大学は、サンライフ北見をメイン会場に5月17日(金)から3日間開催された第28回2013オホーツク「木」のフェスティバルに今年も参加しました。

本フェスティバルはオホーツク圏が誇る木の工芸品、食器、家具からログハウス、木材まで、木に関連する製品や技術などを全国に向けアピールする展示・販売・情報発信イベントです。同時に、木のぬくもりや優しさを伝え、訪れる人に森林への関心を高めてもらう環境意識醸成の場としても大きな役割を果たしています。今年も200を超える企業・組織が参加し、5月としては寒い天候の中、4万人近い来場者が訪れ

る盛大な催しとなりました。

社会連携推進センターでは、地域の特色を色濃く反映した、スキーブーツ、カーリング、南極氷床ボーリング、海氷・雪氷などに関する研究をパネルやDVDで紹介し、広く大学の広報を行いました。今年フィンランドからの本学留学生も参加し、毎年本イベントに参加しているフィンランドのログハウスメーカーの方と本学国際交流センター長および留学生による地域交流も行われました。

これからも、地域におけるイベントへの貢献、大学広報を積極的に進めていきます。



テープカット



研究の紹介

北海道遠軽高等学校と高大連携協力に関する協定を締結

(学生支援課)

本学は、5月24日(金)に、北海道遠軽高等学校と高大連携協力に関する協定を締結しました。

当日は、後藤哲北海道遠軽高等学校長が本学を訪れ、鮎田耕一学長と協定書に署名を行いました。本学が高大連携協力に関する協定を締結するのは、今回が初めてとなります。

このたびの協定は、本学と北海道遠軽高

等学校が連携協力することにより、高等学校教育と大学教育との円滑な接続を図り、人材育成に資することを目的としています。

協力の内容は、学生による学習指導、講座の開設、部活動等の交流等について連携する予定で、今後設置される「高大連携連絡会議」において協議を進めることとなっています。



協定書を取り交わす後藤校長(左)と鮎田学長

平成 25 年度新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン事業スタート (社会連携推進センター)

平成 18 年度から実施している「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」事業の平成 25 年度の開講式を 5 月 27 日(月)に行いました。本事業は、JST 事業として 5 年間実施し、一昨年度は北見市、昨年度はオホーツク総合振興局、今年度は再び北見市の協力により実施する運びとなりました。

今年度は、受講生 12 人を受け入れ、その中には、5 人の学生も含まれており、地域へ輩出する人材の定着や研究成果の還元がより一層進むことが期待されます。

本事業では、人材の育成を行うだけではなく、関連の人材育成やその成果を活かす地域イベント等との連携の必要性に関する情報、地域特性を活かした商品開発に役立つ情報などを収集するための調査も行うことにしています。

開講式では、事業内容の説明とともに、

さっそく、受講生にとって必須科目でもある公開セミナーを開催しました。今回は、講師に本学客員教授でもある吉田芳春氏（吉田国際特許事務所所長、弁理士、元日本弁理士会副会長）に講演をいただきました。「観光客側から見た食と自然を通じてのまちおこし」と題し、観光を通じた PR や食産業振興への視点など、今後の北見の街おこしに対する提案もいただきました。北海道、特にオホーツク圏は道外に対しこれまでアピールしきれていなかった魅力的なモノが豊富にあるとのお話しをいただきました。

今年度の本事業カリキュラムは平成 26 年 3 月まで続きます。受講生は 3 月初旬の成果報告会に向けて約半年間、個々の商品開発を手がけていきます。



開講式



公開セミナー

平成 25 年度構内美化作業を開始

(施 設 課)

今年度の構内美化作業は悪天候のため、5月 27 日 (月) を初回としてスタートしました。当日は5月の北見らしい澄み切った青空と、真夏のような高い気温の中で実施することができました。

鮎田耕一学長の挨拶及び本学の環境保全学生委員会 (KITeco) による、ごみの分別に関する説明の後に作業が開始されました。

例年通り初回は大量のごみが集まりましたが、それでも落ちているタバコの吸い殻が年々少なくなっているとの声も聞かれ、平成 5 年度から、20 年間続く構内美化作業の効果を認識することができました。

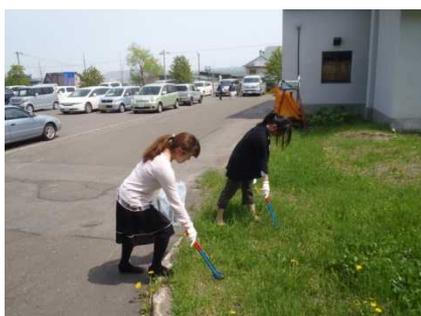
今後の作業は、10 月までに計 6 回を予定していますが、今年度も学生及び教職員の美化意識の向上が一層期待されます。



美化作業開始の挨拶をする鮎田学長



ごみの分別の説明をする KITeco



強い日差しの下、作業をする職員



ごみ収集場所における分別の様子

平成 25 年度第 1 回 J ファンド運営委員会を開催

(財 務 課)

5 月 30 日 (木) に本学において平成 25 年度第 1 回 J ファンド運営委員会が開催されました。J ファンドは北海道地区の 7 国公立大学法人が協定に基づき行っている資金の共同運用の名称で、本学も平成 21 年 4 月の運用開始当初から参加しています。

同運営委員会は、毎年、J ファンドに参加する 7 国公立大学法人の持ち回りで開催

されており、平成 25 年度は本学が当番大学となっています。

本委員会においては、本年度 6 月以降の運用計画が審議され、平成 24 年度の運用実績が報告されました。

なお、本学は平成 24 年度に北海道大学に次ぐ 1,018,618 円の運用益を上げています。



会議の風景

平成 25 年度北海道地区国立大学法人等財務担当部課長会議を開催

(財 務 課)

平成 25 年度北海道地区国立大学法人等財務担当部課長会議が、5 月 30 日、本学が当番大学となって開催されました。本会議は、道内の 7 国立大学、4 国立高専及び 2 国立青少年機関の財務担当部課長の意見及

び情報交換の場として、毎年開催されています。

会議では、「道内国立大学等の事務の共同処理の推進について」を議題として意見及び情報の交換が行われました。



議事に先立ち挨拶する小椋事務局長



会議の風景

= 日誌 =

4 月

- 3日 教授会、教務委員会
- 4日 中小企業基盤整備機構個別相談会、社会連携推進センター運営会議
- 5日 入学式、新入生ガイダンス（全体）
- 8日 新入生ガイダンス（系列）、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 9日 前期授業開始
- 17日 教育研究評議会
- 18日 教務委員会、中小企業基盤整備機構個別相談会
- 22日 役員会、発明審査委員会、社会連携推進センター推進協議会
- 23日 学生委員会
- 24日 社会連携推進センター運営会議
- 25日 就職支援室会議、入試企画センター運営会議
- 30日 広報委員会

5 月

- 2日 中小企業基盤整備機構個別相談会
- 7日 役員会、月曜日授業振替、入学者選抜委員会、編入学試験（推薦入試）出願受付（～13日）、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 8日 教務委員会
- 9日 外部評価委員会
- 15日 国際交流委員会
- 16日 中小企業基盤整備機構個別相談会
- 20日 大学院入学試験出願資格事前審査受付（～24日）
- 22日 教育研究評議会
- 23日 学生委員会
- 24日 北海道遠軽高等学校と高大連携協力に関する協定を締結
- 27日 平成25年度構内美化作業開始、平成 25 年度新時代工学的農業クリエータ人材創出プラン工農教育プログラム入講式・オリエンテーション
- 29日 編入学試験（推薦入試）面接試験、社会連携推進センター運営会議
- 30日 平成25年度第1回Jファンド運営委員会、平成25年度北海道地区国立大学法人等財務担当部課長会議